

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成23年(2011)7月10日
No. 43
発行 高津啓洋

春を告げる ラパーチョが開花

6月18日に、先駆けのラパーチョの桃色の花が今年初めて見事に咲いたのを撮影しました。まだこの一本だけで、7月になると他の桃色ラパーチョも本格的に咲き始めるでしょう。

アスンシオンの市内をはじめ、6月の末になると日本の桜前線が北上するように、パラグアイ全土にラパーチョの花が咲きだします。(飯野元理事)



東京でセミナー 高津代表が

6月

1999年、生物多様性の劣化が進むパンタナール湿原の環境保全に着手、国際的な環境保全活動を開始しています。

地球規模の環境破壊に誰よりも真剣に取り組んでいる文鮮明師の「まだあまり知られていない側面を紹介します」との切り出しで、「レダプロジェクト」をパワーポイントで解説しました。

②「世界の途上国の生産現場では計5千万人の中間管理職が不足し

ていると言われる一方、国民の大半が大学過程修了という高い教育水準を持った日本人が、仮に今すぐ国民の半数が海外に出て貢献したとしても、現在の悲惨な世界を救うにはなお不十分です。したがって、ここにお集まりの皆さん全員が民間の「平和大使」に任命されたとしてもまだ世界の需要に追いつきせん。

各地で「平和大使」出を急ぐだと思いつきせん。③「かつ



トランジ-、その鉄鋼・造船、そして自動車産業、高速鉄道と様々な分野でトップランナーの地位を誇ってきた日本ですが今は中国その他にその地位を譲りました。

ところが、日本から世界に発信できるハイテクが一つだけあるんです。それは国土保全、防災・環境保全のための森づくりのノウハウです。

欧米のすべての先進国がここ百年の工業化でほとんどの森を伐採してしまい環境問題に苦慮していますが、日本は

日本「平和の輩ベキます」ではスタ次は

目覚しい近代化を遂げる一方でその土地本来の森を皆殺しにせず残してきた、それが「鎮守の杜」(chinjunomori:1974年、世界生態学会で学術用語に)、つまり神社やお寺、旧家の屋敷林に見られる手つかずの森です。

「森林破壊が進む環境危機時代にあって、日本の鎮守の森は世界の奇跡だ!」というのが海外の生態学者の評価です。近年急速に

世界の注目を集めているこの「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」のノウハウを皆さんが学び、それを世界に発信することによって日本は環境分野のトップランナーになることができます」

④「環境問題は話を聞くだけで終わるのではなく、小さな規模であっても自分の手で森づくりを行うことが大切で



す」とお話し、高木・亜高木・低木の苗木三本セットを参加者に実費でお譲りしました。

⑤セミナー終了後、時間のある方々と池上本門寺の鎮守の森を散策、シラカシ、シイノキ、ヤブツバキなど手つかずの森の構成樹種を確認しました。

特に青年奉仕隊がプレジデントフランコ市に寄贈する植樹の5000本の内、1200口が皆様の協力で出来れば1200口×2000円（一口3000円として）240万が実質的に青年奉仕隊の支援に回るようになりますので関係者の方に市に寄贈する苗木代金として援助をお願いしてみて下されば感謝です。